



# 授業づくり講座

## In 安芸市立伊尾木小学校

授業者 島崎 雅子 教諭



教材研究会 9月18日 第1学年「かたちづくり」第2学年「はこの形」

### 能力ベースの学びは複式授業の中に！

#### 1・2年生学習指導案の単元デザイン (伊尾木小学校提案)

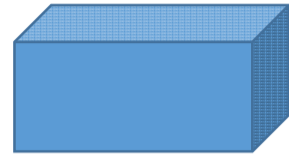
- ①学年別指導で図形領域に重点を置き、同領域を連続して指導する。
  - ・第1学年「かたちあそび」⇒「かたちづくり」
  - ・第2学年「長方形と正方形」⇒「はこの形」
- ②同時間接指導型で授業を行う
  - ・導入とまとめて直接指導を行い、その他は教師が柔軟にわたれるよう同時間接指導とする。
- ③「数学的な見方・考え方」が働く場面を明確にし、児童のメタ認知を育てる発問を意図的に行う。
- ④学習活動の数学的意味や数学的価値に気付くように、振り返りを工夫する。

前単元での「見方・考え方」を活用する。  
【第1学年】「ものの形に着目して、形の構成を考える」  
【第2学年】「構成要素に着目し、構成の仕方を考える」

#### 齊藤先生からの指導・助言

☆図形領域で単元をつくることの意味  
**Less is more!! 少なく教えて豊かに学ぶ** これが能力ベースの基本です。今こそ、複式の学びの在り方を問い直してみることが大切です。

- 【第1学年】
- ・同じ形が2枚
  - ・積み重ねられる
  - ・長しかく
  - ・平ら



- 【第2学年】
- ・長方形が2枚
  - ・面が6つ
  - ・辺が12本
  - ・向かい合う面の形が同じ

上記のように、「かたちあそび」「はこの形」では同じ図形を用いて学習します。同じ図形でも、1年生での見方と2年生での見方は違ってきます(見方の成長)。この見方・考え方を2年間で学ぶことに複式のよさがあります。

☆2年間で学ぶ単元を描く!! ~学び直しと学びの見直し~  
2学年で組み合わせることのよさを生かすことが大切です。下学年は上学年の学びを見ながら「学びの先を見つめる」、上学年は下学年の学びを見ながら「学びの振り返りを行う」ここに、同一課題・同一活動で行うメリットがあります。



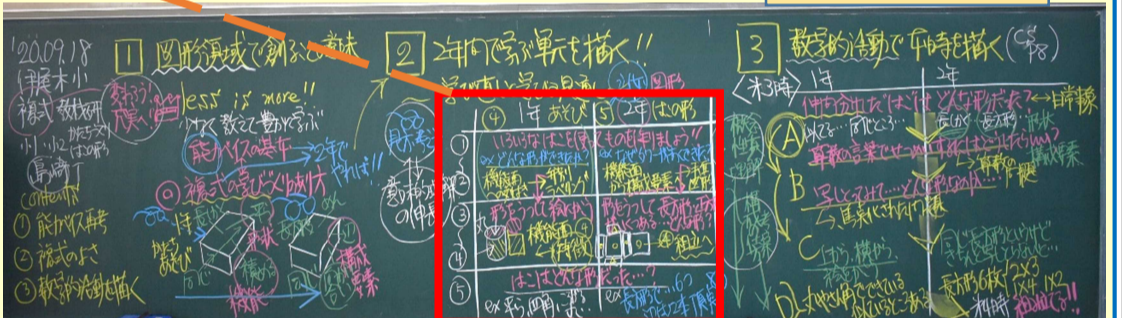
教材研究後、両学年共前向きで授業を行うように変更しました。

☆教師がポジティブに考える2学年を分けて学習する必要性について考えて下さい。「複式だからこそやれることがたくさんある」と、発想を転換することが大切です。

齊藤先生指導板書

第一学年・第二学年同一課題での指導計画。

【第1学年：かたちあそび】	【第2学年：はこの形】
<p>1・2時</p> <p>いろいろな箱を使ってものを作ろう</p> <p>問い【どんな形ができたかな?】</p> <p>①自分のお気に入りの箱を選び、いろいろなものを作る。【態】</p> <p>②作ったものを説明する。 ○それぞれの立体図形の特徴や機能に着目して弁別する。【知・技①】【思・判・表】</p>	<p>問い【なぜその形を使ったのかな?】</p> <p>①箱を使ってより高く、くずれないタワーを作る。【態】</p> <p>②作ったタワーについて説明する。【知・技】【思・判・表】</p>
<p>3(本時)・4時</p> <p>形をうつつてみよう</p> <p>問い【仲間分けしたものはどんな形かな?】</p> <p>③箱の形を観察して、似ているところを見付ける。【思・判・表】</p> <p>○箱の形を写し取る。(上から、横から)</p> <p>問い【どの形を使ったのかな?】</p> <p>④形を写して絵をかく。 ○写した絵を使って、箱の形を当てるゲームをする。【思・判・表】</p>	<p>問い【箱の面について調べてみよう】</p> <p>③それぞれの平らなところはどんな形か調べる。【知・技】</p> <p>○箱の面を写し取って、同じところと違うところを見出し説明する。【思・判・表】</p> <p>問い【面はどんなふうにつながっているのかな?】</p> <p>④どう並べると箱の形になるか観察する。 ○面と面をつなぎ合わせて箱を作り、その際に気を付けることを説明する。【思・判・表】</p>
<p>5時間</p> <p>はこの形かな?</p> <p>問い【箱の形は、どんな形と言ったらいいかな?】</p> <p>⑤身の回りにある箱を観察し、どんな形と言えば、友達に伝えることができるか考える。 ○友達の発表を聞いて、どの箱が発表の箱と合うのか考える。【態】【思・判・表】</p>	<p>問い【箱の形は、どんな形と言ったらいいのかな?】</p> <p>～辺や頂点などの算数用語を使って説明しよう～</p> <p>⑤実物の箱とひごで粘土玉を使って作った骨格模型を観察する。 ○粘土とひごを使って箱の形をつくる。 ○分かったことを発表し、箱の形をどんな形と言えば友達に伝えることができるか考える。【態】【思・判・表】</p>



授業研究会 10月28日 第1学年「かたちあそび」第2学年「はこの形」

#### 伊尾木小学校提案より

##### ◇算数科における同一単元指導

- \*上学年と下学年の児童が教え合ったり、考えを高め合ったりすることで互いに学び合う環境をより整えることができる。
- \*「わたり」「ずらし」をする必要がないため、効率的な学習ができる。
- \*学習集団の規模が大きくなるので多様な考えが出やすくなる。

##### ◇これまでの算数科複式授業の「当たり前」を見直す

- \*複式だけど、単式と同じように授業ができないか?
- 同一課題・同一活動の、複式のよさを生かす。
- 各学年での数学的な見方・考え方を働かせることができる数学的活動の設定

#### 授業の視点

- ◆数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、学びを深めることができたか。
- ◆同一課題・同一活動の授業でも、本時のねらいや深い学びを達成することができたか。

#### グループ協議より

- 具体物を用いて活動を行ったので、形状面だけでなく、機能面にも着目することができていた。
- 「何のために形を写すのか」という必然性をもたす部分が弱かったのではないか。
- 見方・考え方を働かせるための発問が弱かったのではないか。
- 異学年で学んでいるよさを生かし、互いの学びを見合って見方・考え方の成長を振り返る時間設定があってもよかったのではないか。

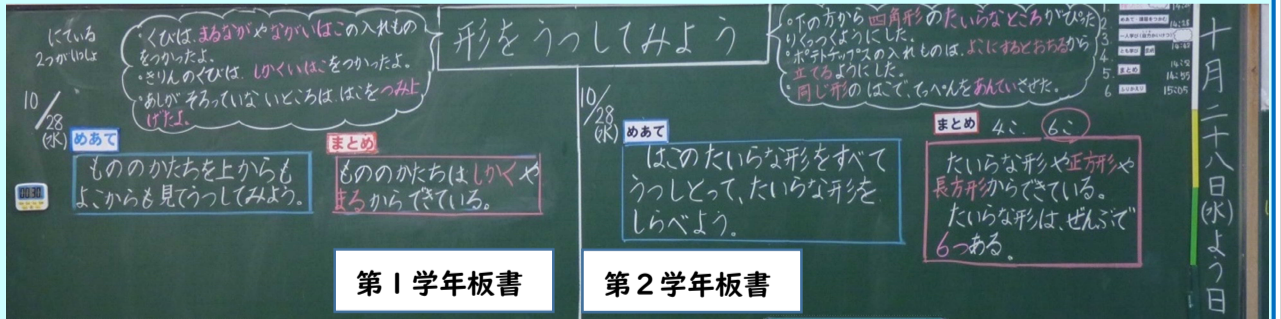
#### 授業者より

複式教育(授業)の難しさと楽しさの両面を再確認しました。どの単元だと、同一単元・同一課題で授業を行うことができるかを考え、単元づくりを行いたいと思います。児童の学習活動が止まらないような流れを仕組むことの大切さも改めて感じました。

#### 参加者より

##### ～今日の講座の学び～

- 異学年が同じ内容や活動を行うことで、一体感も生まれ、2学年間のつながりがより理解できるようになりました。
- 同一課題で授業を行うことの有意性と共に、学年に合った課題設定を行うことの重要性を改めて感じました。
- 異学年の子供同士の学び合いで深まる授業展開を考えたいです。
- ～講座を受けて取り入れたこと～
- 複式授業のよさを見直し、同一活動での授業を行いました。
- L字型で授業を行っていましたが、両学年同方向を向いての授業に変えました。児童の様子が見取りやすくなりました。



第1学年板書

第2学年板書

十月二十八日(水)より